

東日本大震災・支援ニュース NO3

まるで戦災の時みたい！

一階の入居者懇談会で、「まるで戦災の時のような状態やね」「福井地震の時、尾口村にいたがとてもゆれた」などなど、みなさん口々にこれまでの体験と重ね合わせて今回の地震について語られました。そして、「募金に協力するわ」とうれしい言葉もいただきました。

支援物資、引き続き協力あり！！

昨日までに13業者と個人の方から、大根、ポテトサラダ、紙オムツ、タオル、ゴム手袋、カップ・割り箸・毛布・消毒液・ペーパータオルなど、支援物資の協力がありました。明朝7時に、新潟に向け出発します。

一回目の物資は、リレーで無事『宮城野の里』に到着し、施設長さんは、「本当にありがたいです。私たちだけでなく、この地域の困っている方にもお分けしたい」と語られていました。



やすらぎの関係者も・・・直接・間接に被害あり。

- * その時、センターの高橋さんは東京にいました。高橋さんは、東京に到着直後に地震となり、夜遅くになんとかホテルに到着して、余震の中、まんじりともせず夜が開けるのを待っていたそうです。予定の研修会は中止となり、汽車の動きだした翌々日に上越線で戻ってきました。
- * デイの奥村さんも、娘さんの引越しで地震直後の12日に東京にいました。荷物が送れないとのことで、とりあえず布団など現地調達で東京着。しかし東京は大混乱で、店は開いておらず、なんとか部屋の電気器具だけ買うことができアパート着。その夜は、電気器具が入っていたダンボールを床の上に開いて、二人でその上（はみだして）で寝たそうです。14日になんとか東海道線で戻ってきました。
- * 入居家族役員の方の千葉にいる娘さんから、「小さい子どももいるので、そちらに行ってもいいか・・・空いた部屋あるか・・・」と連絡あり。